



日本茶のふるさと
生産の景観

解説マップ°

平成 26 年 3 月
京 都 府

宇治茶生産の景観を巡る ルートマップ

B 城陽市域

⑬ 上津屋

⑦

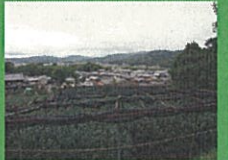


C 京田辺市域

⑭ 飯岡

⑧

⑥



A 宇治市域

① 中宇治

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

D 宇治田原町域

③ 郷之口



④ 湯屋谷

⑥
⑪
⑫



⑤ 奥山田



宇治茶歴史街道

最終章参照



F 南山城村域

⑪ 童仙房



⑬ 高尾

①



⑫ 田山



E 和束町域

⑧ 釜塚

④



⑦ 原山



⑥ 湯船

③
⑤
⑥



A 宇治市域の宇治茶生産の景観

中宇治、白川

⑤ 拝見窓が復原された茶問屋

宇治市の茶業の中心地である宇治橋通りでは、独特の歴史と景観の価値を活かした重要文化的景観の整備と活用が進められています。平成26年3月には、茶問屋の旧焙炉場の修復が竣工し、茶の選別をおこなう拝見窓が復原されました。



⑥ 白川の本質覆下茶園

伝統的な覆下茶園では、竹で枠を組んだ上を藁資で覆い、その上に稲藁を厚く載せることで遮光し、新芽に甘みをもたらします。宇治市域では、白川や宇治川河川敷などでこの本質の覆下茶園が営まれています。

概要

宇治市域は、てん茶（抹茶）及び玉露など、茶畑に覆いをかけて栽培する覆下茶園による茶栽培をおこなう茶畑が点在するとともに、室町時代末期以来の歴史を誇る茶問屋が立ち並ぶ都市景観を有する地です。宇治の茶栽培は、鎌倉時代に始まる長い歴史を持ち、16世紀後半に他地域に類をみない覆下栽培の方法が開発され、質の高いてん茶などを生産してきました。また、同じ頃から茶業を取り仕切る茶師が頭角を現し、江戸時代を通じて抹茶などの高級茶の製造と販売を独占し、宇治独特の茶文化を育みました。中宇治には、茶師屋敷をはじめとする茶問屋の立ち並ぶ活気のある町並み景観が現在も見られます。

宇治川河川敷や、中宇治から山一つ隔てた白川の地には、水はけのよい砂質土壌の地質を活かして、本質及び寒冷紗による覆下茶園が営まれており、てん茶や玉露が栽培されています。これらの茶園から摘まれた茶葉は、中宇治や白川の茶問屋等で乾燥、選別、合組が行われ、製品化されます。

中宇治の中心市街地と白川等の茶畑は、国の重要文化的景観に選定されています。

中宇治

長い歴史を持つ抹茶生産の中核をなす市街地です。宇治橋通りを中心に、戦国時代からの宇治茶業を取り仕切った茶師の旧宅や茶問屋、茶農家が立ち並び、茶の製造と販売をおこなう茶業街を形成しています。市街地の裏手には、かつては扇状地の地形を利用した覆下茶園が広がっており、現在も市街地内や宇治川河川敷、段丘上などに茶園が営まれています。



① 宇治橋三の間から望む
宇治川の景観

琵琶湖に発する宇治川は、宇治で丘陵から平地に流れ出ます。この地形変化は、扇状地の地質や朝霧のかかる気象を生み、古くは平安貴族に愛され、新しくは宇治茶生産の展開の源となりました。



② 宇治川河川敷の覆下茶園

宇治川河川敷では豊臣秀吉が宇治川の大規模な河川改修を行った際に築いた太閤堤が発見され、国史跡に指定されています。その直上には、河川敷の水はけの良い土壌を利用して、本質及び寒冷紗の覆下茶園が営まれています。



③ 宇治橋通り商店街と
茶問屋・茶農家

メインストリートの宇治橋通りには、戦国時代から茶師屋敷が立ち並び、現在も複数の茶問屋と茶農家が並びます。この歴史は、町家の軒が道路内に大きく張り出す独特の空間利用に刻み込まれ、通りの景観を個性付けています。



④ 茶工場の煉瓦造乾燥炉

宇治橋通りの町家の奥には、抹茶の原料となるてん茶を製造するための煉瓦造の乾燥炉が現在も現役で稼働しています。中宇治独特の奥行きのある深い敷地形状を利用して、10mを超える長大な乾燥炉が設置されています。



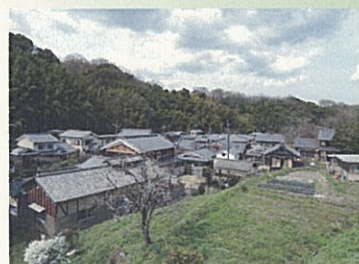
⑥ 覆下・露地茶園の景観

白川の最奥、上明には、本質を含む覆下茶園と露地茶園が谷を埋め尽くし、柿の木が彩りを添える、桃源郷のごとき茶園景観が広がります。



⑦ 白川金色院の坊に由来する
棚田

覆下茶園には大量の稲藁が必要となるため、茶園には水田の存在が不可欠です。白川の棚田は、白川金色院の十六坊跡に営まれており、古くに引かれた水系を利用して水田化されたものと考えられます。



⑧ 茶農家の集落景観

白川の集落では、敷地内に茶工場を有する茶農家が、通りに沿って立ち並びます。古くは通り沿いに茶工場を構えましたが、昭和初期以降になると敷地奥に茶工場が引き込まれ、大型化します。



中宇治から山一つ隔てた谷筋に展開する茶生産集落です。12世紀初頭に創建された白川金色院を中心に、16の坊が営まれた地で、これらと入れ替わるように、江戸時代に茶生産集落が発達しました。谷筋を埋めるように覆下茶園や露地茶園が広がり、柿の木や棚田とともに、宇治市域の茶園の原型ともいえる茶生産景観が残っています。

B 城陽市域の宇治茶生産の景観

上津屋



③ 木津川河川敷に広がる覆下茶園

木津川右岸の河川敷には、水はけの良い砂地を利用して、本質や寒冷紗を用いた覆下茶園が広がっています。

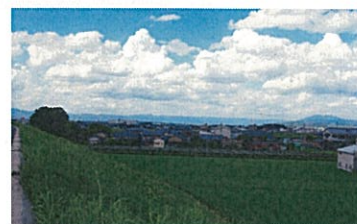
概要

城陽市の市域東部は山地が広がる一方で、中央から西部にかけては広く平地が形成されています。宇治市域に隣接していることから、早くから茶生産が伝播し、17世紀中期には市域に茶園があったことが確認されています。

上津屋は、城陽市域の北西端にあたる地区です。木津川のすぐそばに立地しており、河川敷には本質や寒冷紗を用いた覆下茶園が広がっています。覆下栽培は19世紀以降に宇治から木津川流域に広まりましたが、本地区はその典型例となっています。河川敷の平坦な砂地を利用した覆下茶園で生産されるお茶は、松のような濃い緑をもつ独特のお茶となり、現在、上津屋地区はてん茶（抹茶）の主要産地の一つとして知られています。

以前は、対岸を結ぶ渡船の発着場もありました。その袂に展開するのが上津屋集落ですが、集落内には茶を加工する茶工場建物も見られ、河川敷の茶園との一体性がうかがえます。

木津川という自然条件をうまく利用して茶園・集落が形成されている点が見所です。



① 上津屋の集落

木津川右岸の堤防に隣接して集落が立地しています。昔は渡船場でもありました。集落の周囲は水田・茶園が広がります。



② 茶工場

上津屋集落を歩くと、茶工場として利用されていた建物を確認することもできます。

C 京田辺市域の宇治茶生産の景観

飯岡



③ 丘陵の地形を活かした飯岡の土地利用

河川沿いの独立丘陵という独特の地形を巧みに利用して、茶園や果樹園、竹林と集落が丘陵を覆い尽くすように展開しています。

概要

京田辺市飯岡地区は木津川左岸に隣接して位置します。地区の中心には標高 66.8m の低い独立丘陵がありますが、周囲は木津川によって形成された平地のために、よく目立ちます。丘陵部には古墳もあり、歴史的な重層性をうかがうことのできる地域です。

丘陵は竹林と集落、果樹園、そして茶園に利用されており、丘陵の周囲には水田が広がります。特に茶園では覆下栽培による玉露生産が盛んにおこなわれており、南山城を代表する産地です。

飯岡集落は丘陵に固まり、屋敷地は農作業にあわせた造りとなっています。なかでも作業小屋は、荒茶加工の場として、また収穫物の保管場所として、さらに茶摘み等の農作業の手伝い人の宿泊場所として、さまざまに利用されていました。

また、丘陵にある竹林は玉露生産に不可欠な覆棚をつくる材の供給地となっており、生業に不可欠な場所でした。

河川沿いの独立丘陵とその周囲の平地という、自然特性を巧みに利用しつつ、茶生産をはじめとした複合的な農業が展開することで、独特の景観を生み出しています。



① 茶工場

飯岡の集落を歩くと、茶工場として利用されていた建物を数多く見ることができます。



② 七井戸・古墳

集落内には七井戸と呼ばれる井戸があり、大切にされています。また、古墳時代前期～後期の古墳もみられ、歴史の重層性をうかがうことができます。

D 宇治田原町域の宇治茶生産の景観

湯屋谷、奥山田、郷之口



④ 大福集団茶園

日射条件や大きな気温差などこの地特有の茶生産に適した土地に開拓する「山なり茶園」が生み出す美しい景観が見られます。



概要

宇治田原町は信楽街道と田原川が交わる交通の要所として古くから栄えた地で、江戸時代に入り、永谷宗円等による煎茶製法の開発や販路拡大によって急速に成長し、煎茶生産の中核を成すに至った町です。

奥山田、湯屋谷は、鷲峰山北麓の谷筋に展開する集落で、奥山田大福谷で鎌倉時代初期に茶栽培が始められ、湯屋谷では永谷宗円等によって青製煎茶製法が開発されたと言われています。宗円は江戸への販路開拓も成し遂げたため、谷深い地ながら茶農家だけでなく茶問屋も軒を連ねる集落形態が生まれました。

茶園は谷沿いの水田脇に設けられた原型というべき茶園景観にはじまり、戦後には大福に大規模な山なり茶園が開かれ、寒暖の差の大きい気候を活かした香りのよい煎茶が生産されています。

また、郷之口は、陸上及び水上交通の結節点に発達した茶問屋街で、間口の狭い町家形式を持つ明治以降の茶問屋が建ち並びます。

茶の他にも古老柿という特産があり、その生産に使われる「柿屋」は水田や茶畑と合わせて独特の景観を見せます。

④ 茶宗明神社

永谷宗円を祀る神社で、湯屋谷の最奥に位置しています。地元とともに、京都府南部を中心とする全国の茶業関係者の寄進により建設、維持されています。



郷之口

信楽街道と田原川が交わる物流の要所に位置する郷之口には、うなぎの寝床状の敷地が並ぶ城下町由来の都市構造を基盤として、茶問屋街が形成されています。



① 郷之口の町並み

出格子がなく軒下に広い空間がある町家が並び、かつての物流の様子を窺わせます。



② 郷之口の茶問屋

郷之口の東端の犬打川脇に位置する一際大きな茶問屋。



③ 柿屋

宇治田原の冬の風物詩の「柿屋」。茶園には柿の木が必ず植えられており、茶生産の原風景が見られます。



⑤ 永谷宗円生家

谷奥の茶宗明神社の脇に立つ永谷宗円の生家跡。内部に当時のほいろ跡が保存されています。



⑥ 湯屋谷集落の景観

細い谷間に建物が並ぶため、石垣の上にそそり立つ様に茶農家や茶問屋の建物が並んでいます。



⑦ 木造3階建の製茶場

急斜面の際に建つ唯一の木造3階建ての製茶場で、谷の入口に構える偉容は茶生産の盛況ぶりを物語ります。



⑧ 大福谷

宇治田原の茶発祥の地。細い谷間は周囲の樹木で日光が遮られ、天然の覆下茶園の様な環境となります。



湯屋谷

永谷宗円等が「青製煎茶製法」を開発したと伝えられる地。江戸に販路を開いたため、谷深い地ながら茶問屋が並ぶ特異な集落形態が見られます。

奥山田

昔ながらの水田と茶園を併せ持つ素朴な集落景観と、急勾配の集団茶園を有する地域です。



⑩ 明治の山なり茶園

小高い丘の斜面に小さく茶園が見えていますが、形状や植生からかつては丘全体が茶園だったことが伺えます。



⑪ 奥山田の集落

集落・水田・茶園が一体となっている茶生産の原風景が見られます。



⑫ 急斜面の集団茶園

奥山田の寒暖差の大きい気候を活かし、山々を一望できる高所に開かれた集団茶園で、急斜面を茶の畝が覆います。



E 和束町域の宇治茶生産の景観

石寺・撰原・釜塚・原山・湯船



③ 釜塚の山なり茶園

集落の真後ろに急斜面の巨大な山なり茶園が控える独特の景観を見せます。



概要

和束町域は木津川の支流である和束川を中心に形成された山村です。古代から信楽と奈良を結ぶ重要な交通路として、重要な位置にありました。交通路沿いには中世の石造物も見られ、また南山城を代表する中世山岳寺院である鷲峰山金胎寺を擁するなど、歴史的な遺産も多く目にすることができます。

現在、和束町は京都府内でもっとも茶生産量が多く、京都府を代表する茶生産地となっています。茶生産の歴史は古く、鎌倉時代には鷲峰山山麓で栽培が始まったとされています。その後、江戸時代にも生産は確認されますが、とりわけ栽培面積が大きく拡大したのは19世紀以降です。煎茶輸出などを背景に、南山城地域で茶栽培が拡大するなか、和束町域でも集落裏側の山腹が山なりに開墾されていき、その結果、宇治茶の一大産地へと展開していきました。

原山・釜塚・石寺・撰原の各地区は、山なりに開墾された茶園と集落が織りなす独特の景観が見られ、京都府の文化的景観に選定されています。

また、湯船地区は宇治茶の生産集落を代表する景観が残されています。



⑨ 湯船の集落景観

湯船地区には、茶工場を有する伝統的民家が群として残されています。

石寺・撰原



① 石寺の山なり茶園



② 撰原の山間の茶園

和東川を挟んで立地する石寺と撰原ですが、茶畑は谷底を通る主要道からは見えません。集落に上がっていくと、とても想像もできないような素晴らしい茶畑景観が広がります。

釜塚では、集落背後の急傾斜の山が頂まで茶畑として開墾された、独特の景観が見られます。

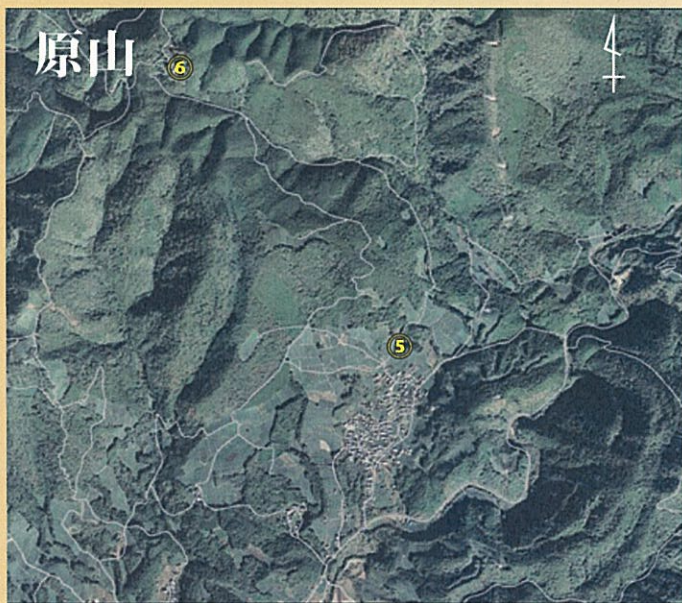
山裾に茶農家等が密集する集落の中には、茶工場も点在しています。



④ 釜塚集落の茶工場



釜塚



原山



⑤ 原山の山なり茶園



⑥ 金胎寺宝篋印塔

原山は、背後に標高682mの鷲峰山が控える集落です。中世山岳寺院を代表する金胎寺が位置し、山頂には正安2年(1300)の銘をもつ宝篋印塔があります。金胎寺の活動のなかで、原山は和東のなかでもっとも早くから茶がもたらされたと考えられています。集落周辺には、見事な山なり開墾の茶畑が広がり、集落内には茶工場も見受けられます。



⑦ 湯船の伝統的民家と茶工場



⑧ 湯船集落と茶園

湯船地区では、林業、稲作、茶業の3つの生業が展開してきました。伝統的民家や茶工場を含む集落景観がよく残されており、宇治茶の生産集落を代表する地区となっています。外での農作業にあわせて雪隠や井戸屋形が屋敷の周囲に配置されているのも特徴です。



湯船

F 南山城村域の宇治茶生産の景観

田山、高尾、童仙房



③ 田山の集団茶園

田山、高尾の茶園は、緩勾配を駆け上がるように茶畝が伸びる「縦畝」の形式に特徴があります。木々の残る山間に茶園が点在する美しい景観が見られます。

概要

南山城地域は木津川水運を背景に、幕末からの煎茶の輸出を契機として茶園を徐々に拡大してきた生産地です。生産地は田山、高尾、童仙房の3地域に広がっています。

南半に所在する田山、高尾では、縦畝の茶園景観が際立っています。山中に山なりに開墾された緩勾配の茶園が点在し、それらを縫うように畝が縦断する様は、宇治茶生産の景観の中でも特徴的な眺めです。縦畝は乗用摘採機の導入にも適しており、生産の合理化と伝統的な景観とが両立したものでもあります。

高尾では、尾根に沿って点在する家屋が茶園に取り囲まれる、古くからの茶生産景観が見られます。

また、童仙房は標高 500m の山間の平坦地に明治初期に開墾された集落で、水田と山なり茶園が対をなす素朴な景観が残っています。



④ 童仙房の茶園景観

茶園と水田が谷間に沿って対をなす茶生産の原風景が見られます。

童仙房

南山城村の北端に位置する、京都府南部で最も標高の高い地区で、明治期に新しく開拓された村です。戦後にも大きく開拓され、独特の茶園経営がなされてきました。



① 童仙房の集団茶園

南山城村の中でも童仙房では縦畝ではなく横畝が優勢で、村内の茶生産の景観の多様性がうかがえます。



② 茶畑と水田

斜面の茶畑と平地の水田が対になる茶生産の原風景が見られます。



③ 童仙房の町並み

山中に突如現れる町並みは開拓村としての童仙房の歴史を物語ります。

高尾

名張川の西側に位置する、標高の高い丘陵上に開かれた茶生産集落です。急勾配の斜面に、南山城特有の縦畝茶園が広がります。岩が多い地質の影響から、所々に茶園から岩が露出する光景も見られます。



⑤ 高尾の集団茶園

縦畝が斜面を走り、丘を越えていく南山城特有の茶園の景観です。



⑥ 高尾の茶園と家屋

急勾配の斜面に、茶園が家屋を取り巻くように開かれています。平地の少ない高尾における伝統的な家屋と茶園の関係がよくうかがえます。



⑦ 岩山の茶園

比較的勾配が急な茶園が多く見られる高尾の茶園の中でも異彩を放つ急斜面の山なり茶園。巨岩が露出する山を覆うように作られたこの茶園からは象徴性が感じられます。



⑧ 田山の縦畝茶園

高尾と同じく縦畝が多くみられる田山の茶園景観。縦畝の茶園が斜面いっぱいに広がる独特の美しい景観です。



⑨ 田山の集団茶園

畝の向きが複雑に変化し、斜面を織りなしていく独特の風景が一望できます。



⑩ 田山の集落と茶園

斜面の茶園と平地の水田の間に家屋が立ち並ぶ、昔ながらの茶農家の生活景が良く残っています。

田山

名張川の東側に位置し、緩やかな丘陵に多くの谷筋が入る地形に茶生産景観が広がります。集落、水田と茶園がまとまりをなす伝統的茶園景観に加え、集落から離れた山間に大規模な縦畝の茶園が広がる集団茶園も見られます。

G 木津川市域の宇治茶生産の景観

山城町上粕

① 大正期建築の茶問屋

大正期には茶の販路が国内向けとなり、質の高い茶を安定して販売することで、茶問屋が隆盛を極めました。広い間口に長屋門を構え、中庭に面して茶工場と主屋を並べる屋敷構えが特徴です。

概要

上粕には、木津川水運を利用した交通の結節点である地の利を活かした茶問屋街が形成されています。

綿業を商っていた家々が、幕末からの煎茶の輸出拡大にともない、順次茶問屋へと転換し発展したもので、奈良街道に沿って広い間口を有する茶問屋が立ち並ぶ通り景観を見せます。

現存する茶問屋の建物は、幕末建設のものから、販路が国内向けとなった大正、昭和初期に建設されたものまで多様に残っており、広い間口を活かして長屋門を構え、中央の庭を茶工場と主屋が囲む、明治以降に発展した茶問屋らしい合理的な配置をみせます。



木津川市



② 焼杉板で囲まれる路地空間

茶業の隆盛に伴い、街道沿いから裏手へと茶問屋街が広がりました。路地では焼杉の腰板を張った茶工場や土蔵に囲まれる独特の景観が見られます。



③ 近代化された茶工場

茶工場は戦後、鉄筋コンクリート造の近代化されたものになっていますが、大正期以来の上粕の茶問屋独特の建物配置は継承されています。



④ 江戸時代後期建築の茶問屋

茶の輸出が始まった江戸時代後期に建設された茶問屋です。上粕が綿業の集落から茶問屋街へと転換していく初期のもので、街道に面して間口一杯に茶工場を配する古い配置形式を残しています。



⑤ 泉橋寺地藏菩薩

奈良街道が木津川を渡る箇所にかつて架けられていた泉橋の橋詰めに立つ、鎌倉時代造立の大きな地蔵です。河川と街道が交差する上粕の地理的特性のランドマークとなっています。

宇治茶歷史街道

山城地域は、お茶に関わる歴史的な史跡や行事・習慣が多く、お茶の文化が日常的に息づいている地域です。

この特性を活かし、茶園、施設、歴史、文化、人など、宇治茶に関する自然や取り組みなどを紹介する「宇治茶歴史街道」を設定しました。

宇治茶の歴史と文化の道

「宇治茶の歴史と文化の道」は、宇治茶が山城に伝播発展した 800 年の歴史をたどる道です。

その起点、黄檗山萬福寺の総門前には、京都母屋「高山寺」の明恵上人が鎌倉時代に茶の栽培をこの地に伝えたことを記念する「駒蹄影園碑」が、また、宇治田原町には日本の煎茶の製法「青製煎茶製法」を考案し、煎茶の普及に大きく貢献した人物、永谷宗田ゆかりの施設があります。

この他にも、「宇治七茗園」の一つ「奥の山茶園」や、「玉露製茶発祥之碑」、「興聖寺 茶塚塚」など、山城地域には、たくさんの史跡や茶園、茶店が点在しています。

宇治茶の歴史に触れながら、おいしいお茶とお菓子を味わえる、「宇治茶の歴史と文化の道」。まずは、おすすめウォーキングコースで宇治茶の魅力を体感してみませんか。



奈良街道とお茶の道

「奈良街道とお茶の道」は、街道、木津川、
鉄道でお茶を運んだ道です。

木津川市山城町は、古くからのお茶の集散地です。まわりの地から集められたお茶を精製加工して、上狛浜から木津川・淀川の水運によって神戸へ、そしてアメリカやイギリスに輸出したことから、かつては「東神戸」と言われました。

明治、大正、昭和と続いてきたにぎわいが「茶問屋ストリート」として当時のおもかげをしのばせています。

木津川の流れに調和する「流れ橋」、木津川沿いに広がる茶畑風景。あなたも、奈良街道や木津川で、お茶を運んだ人々に思いをはせながら、美味しいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



玉露・てん茶の産地の道

「玉露・てん茶の産地の道」は、覆下で作る玉露やてん茶の産地と茶人ゆかりの社寺をめぐる、玉露の手もみ体験やおいしい宇治茶を味わう道です。

木津川の流に調和する流れ橋のたもとには、てん茶畑が広がり、古き時代の趣きがあります。京田辺市には、高級な手摘み玉露の茶畑が見られます。

石清水八幡宮の社僧であった松花堂昭乗は、茶人としても有名で、ゆかりの松花堂庭園では、茶会も行われます。また、とんちで有名な一休禪師が晩年を過ごした酬恩庵（一休寺）では、秋には燃えるような紅葉を楽しむことができます。普賢寺ふれあいの駅では、地元の農産物を購入することができ、玉露の手もみ体験もできます。

あなたも、茶人ゆかりの社寺めぐりながら、おいしいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



文化的景観の茶畑の道

「文化的景観の茶畑の道」は、京都府選定文化的景観に選定された「和束町の宇治茶の茶畑景観」を巡り、紺碧の空と茶樹が織りなすコントラストの美しさを楽しむ道です。

「恭仁宮跡」「海住山寺」「安積親王陵墓」など、街道付近には、歴史と文化がたどられます。和束町のお茶の始まり、それは、鎌倉時代までさかのぼります。海住山寺の高僧慈心上人が、茶業興隆の祖とされる梶尾の明恵上人より、茶の種子の分与を受け、鷲峰山山麓に栽培したのが始まりと言われています。江戸時代には皇室領となり、京都御所にも納められていました。

「石寺の茶畑」「原山の茶畑」「恭仁宮跡」「海住山寺」「安積親王陵墓」…「文化的景観の茶畑の道」は、先人が苦労して作りあげてきた日本の農村風景そのものです。あなたも、美しい茶畑景観を愛でながら、美味しいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



緑の茶園ときらめく水面の癒しの道

「緑の茶園ときらめく水面の癒しの道」は、山並みに広がる茶園や高山ダム、月ヶ瀬湖、木津川沿を散策し、南山城村の宇治茶を楽しみ、笠置の温泉で心と体を癒す道です。

高山ダムの春は、水面がきらめき、桜が咲きほころぶところから始まります。そして、5月、ウォーキングコース沿いには、目にもまばゆい新芽が芽吹く茶畑が広がります。

木津川沿いを散策すると後醍醐天皇を慕う姫が祀られている恋志谷神社。地元の人から「恋志谷さん」と慕われ、縁結びに御利益があると言われています。

支流の布目川下流には一枚岩からなる河床に陥穴が散在する壮観な風景を楽しみながら、笠置の温泉へと至ります。

「緑の茶園ときらめく水面の癒しの道」は、どこまでも続く茶園と湖や川の水面を楽しみ、そして南北朝時代の歴史に触れる道です。

あなたも、茶園や水面の美しさに癒されながら、おいしいお茶を味わい、宇治茶の歴史を体感してみませんか。



宇治茶歴史街道に関するお問い合わせ先

宇治茶の郷づくり協議会／事務局：(公社) 京都府茶業会議所内
宇治市宇治折居 25-2 電話 0774-23-7713

京都府・市町村連絡先

●宇治市都市整備部歴史まちづくり推進課
電話 0774-22-3141 (代)

●城陽市市民経済環境部農政課
電話 0774-52-1111 (代)

●京田辺市経済環境部農政課
電話 0774-63-1122 (代)

●宇治田原町産業振興課
電話 0774-88-2250 (代)

●和束町農村振興課
電話 0774-78-3001 (代)

●南山城村産業生活課
電話 0743-93-0105 (代)

●木津川市建設部農政課
電話 0774-72-0501 (代)

編集：京都工芸繊維大学・清水研究室 京都府立大学・上杉研究室

発行：京都府農林水産部農政課 電話 075-451-8111 (代) メール nosei@pref.kyoto.lg.jp